

人々の定着は米にあり

えぞ地 文月村 野田作右衛門

三百五十年後の皆さん、萩野小学校の皆さんも、お米のご飯は好きですか。私は岩手県の野田村で生まれましたが、わけがあつて、えぞ地に住むことになりました。時々、江戸幕府松前藩のお役人さんたちがここにやってきて、「この村では、米は採れないのか。」と何度も聞いてくるのでした。

私はもともと米作りをやっていたので、岩手の気候に近いこの地区を選んで、持ってきた「赤毛」という種もみを植えてみましたが、最初の三年間は、まったくだめでした。近所の高田吉右衛門さんの家でもやっぱりだめでした。どの家にも米はなく、あわやひえ、大根やニンジンなどを食べながらとても苦しい生活をしていました。町のほうでは、稲作をあきらめ、海岸の方へ移り、漁業に変えた人が大勢います。できるかどうかかわからない稲の栽培でがんばるのはバカみたい

だと、多くの人から笑われました。

でも、どうしても米を食べたいので、その後も何度も挑戦し、十年以上も粘つてがんばってみました。その結果、ようやく今では少し収穫できるようになりました。えぞ地で初めて、自分で作ったご飯を食べたのは私です。

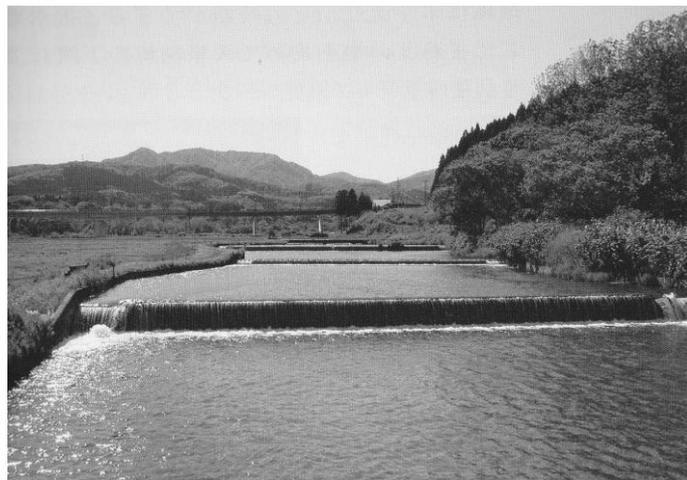


北海道 百五十年

北海道 文月村 野田作右衛門

私も野田作右衛門です。おじいちゃんのおじいちゃんの、そのまた・・・、最初のおじいちゃんがここに住んでから、ちようど二百年が経ちました。小さい頃は岩蔵という名前でしたが、八代目 作右衛門を襲名しました。

江戸時代の終わりごろのことですが、幕府の計画で五百人以上の人たちが集められ、大野川に『大どめ用水』を造る工事がありました。浅いプールのようなものです。今ではそのおかげで、大野のあちこちでも、田に引く水が温かくなり、お米もたくさん採れるようになりました。



去年は箱館戦争があつて、こちらは大変でした。おおひ神社のいちいの木にも鉄砲の弾の傷跡が残っています。明治維新です。

今は明治二年。今年から「えぞ地」を「ほっかいどう」と呼ぶことになりました。皆さんは、それから百五十年先に生きているわけです。

## 寒地の人々の願い

北海道 大野村 高田万次郎

### 高田 万次郎



私は野田さんの親戚の高田万次郎です。私の家でも野田さんと一緒に、ずっと昔から稲作に挑戦し、最近はまだまあよく採れるようになりました。

実は、明治六年春、まだ雪があつた冬のころでしたが、中山久蔵という人が急に訪ねてきました。その人も明治になってから、大阪から北海道に移り住んだそうです。家は札幌の近くで、こちらよりもずっと寒い地方なので、やはり、どうしても稲作がうまくいかないと困っていたのだそうです。

中山さんは、「どうか、寒さに勝つた大野の稲の育て方を教えてもらいたい。『赤毛』という種もみをなんとか、少しでも譲ってほしい。」と、何度も、何日も、必死で頼んできたのです。



私はその強い思いに心を打たれました。私の祖先の高田右吉衛門と初代作右衛門さんの二人のがんばりにもとても似ていると思い、文月村の今の名主の野田作右衛門さんにも相談し、種もみを譲ることにしました。後になって聞いた話では、その結果、恵庭、北広島など、石狩地方や周辺のととても寒い地方でも、よくお米が採れるようになったそうです。

### たとえ一人になっても

大野村 東開発 森井駒吉

明治十七年に、四国の香川県から北海道に移住しました。仲間と一緒に八人で、

畑や田をやってみることにしました。私はもともと農家ではなかったし、ここは不毛の原野、湿地でしたので、まるで戦いのようでした。

何年たつてもうまくいかず、ほかの仲間がみんなあきらめて、別のところへ行ってしまいました。最後は自分一人だけになってしまいましたが、それでもこの地に踏みとどまり、がんばり続け、数年が経って、ついに稲作に成功しました。この地で得た収入は大野小学校の経費にも充てられたので、「学田」とも呼ばれるようになりました。

東開発神社の中や境内の石碑には、そのときに応援してくださった多くの人たちの名前も残っています。一番心配し、応援してくれた高田万次郎さんの名前もあります。今度ぜひ見てください。また、ここにあつた沼地には、河童（かっぱ）の伝説も残っていますよ。

### あとがき

北海道水田発祥の地碑は北斗市、寒地稲作記念の碑は北広島市にあります。現在のおいしいお米のルーツでもあります。今に生きる私たちが、先人の苦勞や思いに触れ、学び続けることで、感謝や人と人とのつながり、自然やものづくりの素晴らしさ・厳しさ等を感じ取る事ができるのです。そのような環境や学びの中で育まれた児童は、自ら道徳性を養っていくことでしょう。今回の再話にあたり、現在の文月地区の高田和弘様、野田進様からお話をいただくことができました。あらためて感謝を申し上げます。

『先人の輝かしい結果だけを見て

そこに至るまでの過程を見ることを忘れてはならない』

### 参考文献・引用

- ・『大野町史』 昭和四十五年 亀田郡大野町／刊
- ・『大野いちばん』 二〇二二年 大野文化財保護研究会資料
- ・『小学校社会科副読本』 平成二十八年 北斗市教育委員会

